

## 2019年度 江戸川大学 自己点検・評価委員会 活動記録

2019年度の本委員会の活動の多くは、自己点検評価報告書の作成に費やされた。報告書作成過程における委員会メンバーの活動がある程度詳細に報告することとした。

### 2019年5月

#### 報告事項

##### 1 報告シート

本委員会が3月に、関係者に対して「PDCA サイクルの結果が可視化される報告シート」での回答を、以下の2項目について求めている。

##### ① 2016年度に大学経営会議に提出した答申に示された改革・改善が必要な項目に対する進捗状況

対象者：学 長、法人本部事務局長、学部長、教務部長、学生部長、学科長、基礎・教養教育センター長

##### ② 現在までの活動とその自己評価、今後の課題

対象者：国際交流センター運営委員長、就職課長、学術情報課長

上記2項目の報告シートの回収状況について事務局から報告があり、まだ未提出の関係者に対して、委員長から回答シートの提出をお願いすることが確認される。

##### 2 屋外喫煙所の受動喫煙防止策

学生及び教職員の健康被害防止の為、「屋外喫煙所の受動喫煙防止策についての改善状況」について委員会で確認を行った。

事務局からの回答は、

- ① 喫煙所を設けるが、屋根付き、壁付きでは屋内と見なされること、
- ② 歩道から喫煙所の距離を離すようにして、現状の対応を取っていること、

であった。

委員からは、屋根のみでは意味がないため、少なくとも壁の設置が必要との意見があった。

## 審議事項

### 1 自己点検・評価委員会としての報告シートの記載内容への評価

回収された報告シートへの本委員会としての評価、及び担当部署へのフィードバックに関して、各委員から回答内容を読んだ上で、担当部署へのフィードバックコメント、次年度の調査に向けての改善事項などを各委員から提出してもらうこととなった。

この時点での各委員から出た意見としては、

- ① ① 次回の認証評価受審への対応として、対応内容に記載している課題についてももう少し具体的なものにすること。
- ② ② 「学長のリーダーシップ」に関する項目を作り、対応内容で学長のリーダーシップの発揮について評価できるようにすること、
- ③ ③ 各学科で作成したフォームの課題が統一されておらず、学科間の評価がしにくいこと、
- ④ ④ ③の解決方法として、次年度からは、委員会で課題や対応策などを埋めて配布した方がよいのではないか、

などであった。

### 2 2019年度自己点検評価報告書の作成

今年度は、学内向けの「自己点検評価報告書」の作成の提案が出された。作成に当たっては、「日本高等教育評価機構の受審のてびき」に基づいて、委員の中から担当者を決めることとなった。

### 3 本学に外部評価調整委員会の立ち上げ

次回の認証評価受審の対応の為、本学に外部評価調整委員会の立ち上げの提案があり、「経営会議に設置の提案を行う」ため、まずは、副学長に委員長が相談に伺うこととなった。

### 4 その他

3月教授会にて、大学教育に関して匿名の保護者からの手紙による訴えがあったとの報告があったが、該当教員への聞き取り結果などを教授会に報告すべきではないかとの意見があった。

## 2019年6月

### 報告事項

#### 1 報告シート

5月の委員会と同様に、引き続き自己点検・評価委員会の2016年度「答申」内容に基づく関係各所からの改善状況に関する報告シート及びその他部署の活動報告シートの回収状況の確認を行った。

#### 2 教員への対応

授業実施方法について教授会での学長からの全教員への注意喚起の件について、「授業料無償化の対応をすすめる上でも、経営会議としても注視している」と副学長から説明があったことについて説明があった。

#### 3 外部評価調整委員会の立ち上げ

外部評価調整委員会の立ち上げの提案を自己点検・評価委員会として副学長に行い、検討されることとなる。

#### 4 授業料無償化

授業料無償化への大学の対応として、大学HPに自己点検・評価委員会の2016年度から2018年度まで活動内容を記載したとの報告があった。

### 審議事項

#### 1 報告シート

回収された報告シートの記載内容に対する自己点検・評価委員会としての評価及び担当部署へのフィードバックに関しての意見交換を行った。

今回は、担当者（例、各学科長）により、テーマを細分化して、複数のシートにテーマごとに課題を記載したものと、1枚のシートにテーマを複数書いたものがあった。これに関して、自己点検・評価委員会として調査を簡素化するには、当委員会が「各部署の課題の解決方法」にまで踏み込まず、課題の把握と解決への進捗を確認することを重視するならば、1枚のシートにテーマを複数記載した方がよいという意見が出された。

また、認証評価ともリンクした課題の調査とすべきではないかとの意見が委員よりあった。その他、課題（対応内容）をクリアしている項目を次年度の回答シートから外すかどうか検討が必要との意見があった。

対応内容を「未対応」や「予定なし」とした課題に対しては、改善に向けて何らかの計画や措置等、手立てを、検討する必要がある、当委員会より当該部署へ方針や計画等を聞いてみる必要があるのではないかとの意見があった。

尚、記載内容に誤解がある回答シートに関しては、担当部署に、説明を行い再提出してもらうことになった。

## 2 自己点検評価報告書の作成

2019年度の自己点検評価報告書の作成に関して、「日本高等教育評価機構の受審のてびき」にある「認証評価の基準項目」に沿って作成することが再確認され、担当者の割当を行い、執筆スケジュールが示された。また、参考資料として、「平成26年度の自己点検評価書」が配布される。

## 2019年7月

### 報告事項

#### 1 認証評価対応 WG

2021年度の認証評価受審に向けて、「認証評価対応 WG (Working Group)」が組織されることが決定したこと、想定されるメンバー（副学長、学部長、教務部長、学生部長、自己点検・評価委員長および事務局の部課長）について報告があった。

また、江戸川大学自己評価書の作成の大まなスケジュールについて説明があった。

2020年7月 認証評価の受審申請

2021年4月 評価機構への2020年度版 自己点検評価書類の送付

2021年秋 評価機構による実施視察

2022年3月 受審結果の通知

#### 2 自己点検評価報告書の作成

前回の認証評価と同様に、評価申請の前年度に本委員会にて「自己点検評価報告書」を作成し、2021年度の自己点検評価書のたたき台とするとともに、適切に自己点検・評価活動が実施されていることのエビデンスとすること。

また、2019年度版の自己点検評価報告書の作成にあたっての注意点として、

- ① 2019年度内で対応がなされている基準項目については「できている」という文で作成すること、
- ② 未達成な基準項目については、「対応中」とすること、
- ③ 作文に必要なデータは、ヒアリングや Web サイトの情報から得ることを中心とすること、
- ④ フォーマットについても、各担当者統一したものをを用いること、

⑤ ドラフト原稿の締め切りは、10月の自己点検・評価委員会までとすること、

として、1週間程度前に提出していただきメールで回覧できるようにすることとなった。

### 3 IR推進室運営委員長からの活動報告シート

IR推進室運営委員長からの活動報告シートの内容に関して、委員から、「現在の個人情報保護に関する学園の規程は、取り扱いが厳しく制限されているため十分な活用が困難になっている。オープンサイエンスの流れに沿って、情報の利活用がスムーズにできる対応策について、検討をして行く必要がある」との意見があった。当委員会の意見として、IR推進室運営委員長へ要望することとした。

## 2019年10月

### 審議事項

#### 1 自己点検評価報告書の進捗状況及び、作成過程での問題点

自己点検評価報告書作成に関して、担当委員に進捗状況及び、作成過程での問題点などについて、以下のような報告があった。

- ① 記載する数字（データ）については事務方に問い合わせた、もしくは問い合わせ中で次回の委員会までに修正する。
- ② ポリシーの記載などは、他の章と重複してしまう可能性があり、最終段階で全体の基準項目をとおして調整する必要がある。これに関しては、基準項目4-1-1と4-1-2については、前回から少し変更して、4-1-1には学長のサポート体制をメインに作文し、4-1-2については各種委員会を中心に記載するようにしたい。
- ③ 基本的に過去に作成した自己点検評価報告書の書き方を踏襲し、変更箇所の確認は事務方に相談しながら修正した。
- ④ 過去に作成した自己点検評価報告書には無い基準項目があり、昨年度認証評価を受審した他大学の文面を参考にして作成している。作成後に基準項目に対応するエビデンスを探す作業が必要となる。
- ⑤ 学科によっては、前回の自己点検評価報告書に記載されているディプロマ・ポリシーの内容をアップデートする必要がある。
- ⑥ GPAの分布について学部別でWebに公開しているものの、成績評価の分布等がHPなどで一般公開されているのか、確認の必要がある。
- ⑦ 学部長の役割の明確化や学部間会議や大学経営会議などでの役割について記載も必要である。
- ⑧ 学長による若手教員などの意見の把握のために、各種委員会、学科会議、経営会議の

構造を確認する必要がある。必要ならば、規程の改正をすべきである。

- ⑩ 基準項目 4-1-3「教学マネジメント」の作成に関しては、教員だけでなく事務職員も参加して PDCA を回しているという内容にすべきである。教務課長が教学マネジメントの担当職員という位置づけで教務委員会、カリキュラム検討会議、教務事項連絡会に参加している。また、PDCA においても、学修成果の可視化（学生の自己評価）、学修行動調査を通して、大学カリキュラムの見直しなど PDCA サイクルが回っているという図が必要である。
- ⑪ 基準項目 6-3「内部質保証」については、前回の認証評価受審の時と評価基準が大きく変わっており、新たな対応が必要である。自己点検・評価委員会による「質保証の役割」を中心に作文する。
- ⑫ IR 推進室の役割についても、基準項目 6-3-1 で触れておいてもらおうと 6-3-2 で対応しやすい。
- ⑬ 過去の自己点検・評価委員会の活動をとおして、学科等に改善を提案し、改善された事項も多くある。このような実績はエビデンスとして利用する。
- ⑭ 作業の効率化のため、「google ドキュメントでの共同編集」を取り入れる。

次回の委員会までに、担当する基準項目の執筆を進め、余裕があれば他の教員の担当の基準項目に対してもコメントを出して欲しい。

## 2019年11月

### 報告事項

#### 1 認証評価対応 WG

次回の認証評価受審のために組織された「認証評価対応 WG」に関する概要説明を当委員会で行う。

WG では、

- ① 2018 年度、自己点検・評価委員会にて行った認証評価の自己判定資料にて不可となっている項目を中心に見直しをすること、
- ② 本学の内部質保証については、「体制を図示する」必要があること
- ③ 内部質保証については、当委員会が PDCA の C（Check 評価）を担当すること、
- ④ 中長期計画の策定は学園本部、学長室の 2 箇所にて作成が進んでいること、
- ⑤ 今後の認証評価へ向けた今後のスケジュール、

などが報告された。

## 2 当委員会で作成する 2019 年の自己点検評価報告書の進捗状況

委員から担当する基準項目について気になっていることなどについて意見交換を行った。

主な論点は、

- ① 数字や規程・組織などの事実確認の進め方、
- ② 担当する基準項目への記述で、不明点な箇所には「？」をつけるなどコメントを付与すること、
- ③ 基準項目を担当する事務部門へのデータや資料などの問い合わせは、文章の作成後にまとめて依頼すること、
- ④ ③に関して、各先生が事務局へ依頼する前に、委員長名で依頼状を出すこと、  
(12月12日付けで、依頼文を関係部署に送付する)
- ⑤ 学報に掲載される内容などを参考に、各学科などの優れた取り組み事例などもまとめること、
- ⑥ 今回の報告書の作成は、前回の認証評価受審の際に作成した報告書を参考にしているが、次の受審に際して基準項目が変更になっていて使わない箇所は、他の基準項目の担当者が利用できる場合があるので、他の委員とメーリングリスト等で共有する。その場合、文章の重複が出た場合は、削除すること、
- ⑦ 研究推進への支援などの基準項目を記載していて、2019年度自己点検評価報告書に関しては、PDCAの評価の中で、「計画中」や「未対応」と指摘する。この評価を受けて、「達成」に向けて大学当局が活動するかどうかは、当局の経営判断であること、
- ⑧ 運動部の競技結果などについては、監督や学生課に問い合わせして、その情報を記載する価値も含めて確認をする必要があること、

などである。

## 3 今後のスケジュール

12月20日、担当者は報告書の下書きを完成させ、事務担当者へ2019年1月17日までにデータや資料の回答を提出してもらえるように依頼する。2019年2月には、基準項目全体の通し読み作業を行いたい。

## 2020年1月

### 審議事項

- 1 「自己点検評価報告書」作成の進捗状況、及び今後の作成スケジュール

各委員より、準備状況、対応予定について報告があり、月末までの完成を目指すこととなった。

## 2 江戸川大学中長期計画（第3次）（案）の当委員会での評価

教授会に提出された中長期計画の内容に関して、各委員より、以下のような修正意見等が出た。

① P.1 「はじめに」の文面が読みづらい。簡潔な文面にした方がよい。

② P.2 ①の部分

経営会議の人数と回数を増やした記述があるが、さらにその結果として「学長が広く意見を集めることが可能になりリーダーシップが発揮できるようになった」点を入れるべきではないか。

⑤の部分

入学から卒業までを多面的に調査していることがわかる文面を入れた方がよい。

⑥の部分 教員が教授会での発言がしやすいという印象を受ける表現がある。若手教員も教授会で意見を言いやすい環境作りが重要だと思う。

③ P.4 ⑤の2行目あたりの・・・カリキュラム外教育が・・・の部分)

部分的に表見がおかしい箇所がある。

④ P.6 (9) 4行目にある「流山グリーンフェスタ」は「流山グリーンフェスティバル」とすべき。

⑤ (2) ②の部分

「文理横断的カリキュラム」という表現があるが、これまでの教務委員会などでカリキュラム改変に際して、各学科にこのキーワードは指示されていない。事実と異なるのではないか。

「長期計画」と「中期計画」は別けて記述した方が読みやすいのではないか。

⑥ P.8 「国際化」の部分

最終行あたりに、「中国・韓国等の言語教育カリキュラムの充実」とあるが、これまで「英語力強化」以外の方針を聞いたことがない。本当に中国語や韓国語も強化するのか。

⑦ P.9 (2) ①の部分

最終行の「その質の検証・改善点の発見を行う」という部分の意味が不明。

10行目の大学院に関する記述

大学としての大学院設置についての姿勢を。中長期計画において明確に記述してほしい。また、「ディプロマ・ポリシーの見直し」、「卒論の質向上」、「入試形態の見直し」、「教員の質向上」などについても今後の課題に入れてほしい。



⑧ P.12 (6) の部分

事務職員の年齢構成が偏っていることに関して、「20代、30代の追加採用」について明確に目標としてほしい。

(7) ③ 教員の評価に関して、「担当コマ数」、「行政負担」、「広報負担」だけでなく、「研究業績」も数値化して評価してほしい。

⑨ 「質保証のためのPDCAの実施」についての記載を、江戸川大学中期計画（第3次）のどこかに入れるべき。

⑩ この中期計画が実行されるかどうか、自己点検・評価委員会がPDCAの観点から評価する際、評価指標となる具体的な実施時期、数値目標などを記述した方がよい。そのことにより、江戸川大学が質保証を担保している教育機関であることが分かりやすい形で示されると思う。

⑪ 中長期計画（第2次）のように、達成目標を項目ごとに予定表形式で記載があると分かりやすい

最後に、当委員会でのこれらの意見をまとめて、大学経営会議のメンバーである副学長に提出することとした。

3 2019年度 答申への回答および活動報告の依頼

前回は評価項目の作成を担当者が自由に決められることにした結果、学科間等で回答にばらつきが多くPDCAが困難となった。また、どのように記述すればよいか分かりにくいという意見も担当者から出た。これらの反省を踏まえて、評価項目は委員会にて指定しておき、学部長等に自己評価をして提出してもらいたい。

委員からは、「学長への設問項目が学部長に流れて、学部長で細分化された項目が学部長等へ流れるというように学長を頂点として、各部門長へ指示をして評価が集約されてくるイメージに取りまとめられることが理想的である」との意見もでた。また、回答シートの「E：予定なし」から「該当なし」にした方がよいとの意見もあった。

2020年2月

報告事項

1 江戸川大学中長期計画（第3次）（案）

前回の自己点検・評価委員会にて出た意見を取りまとめして、副学長へ提出したこと、また、当委員会の意見については、学長室会議にて審議されて、次回の教授会で中長期計画の修正案が提示される予定であることが報告された。

## 審議事項

### 1 自己点検評価報告書の内容チェック、及び今後のスケジュール

平スケジュール概略として、以下の説明があり、委員会で承認された。

- 2月末までに各委員の担当章の完成および企画総務課への提出
- 企画総務課にて3月中旬までに編集一本化作業
- 委員による最終校正
- 学科長による確認
- 印刷・公表作業

基準ごとの修正意見が以下のように出された。

(共通項目)

- ・年表記は 平 30 (2018) 年 の表記で統一する。
- ・学習、学修は、「学修」で統一する

## 基準 1

### 基準項目 1-2-③

- ① 情報リテラシー → アカデミックスキル演習
- ② 3月に第3次の中長期計画が策定された文に、「学長室」で審議して決定したという経緯を入れる。
- ③ 3つのポリシーについて、原文を取込みするのは基準1のみとして、その他の基準でポリシーについて記載する際は、基準1を参照と表記する。
- ④ ポリシーの原文について、文末を本文に合わせて調整しているが、原文の取込については原文ママとして文末の調整は不要。
- ⑤ ポリシーの原文を取込する際に、字下げなどの位置がマチマチになっているので調整する。

## 基準 2

### 基準項目 2-2

- ① 成績不振学生に対する支援のパラグラフにて、エドリルについての記述を追加する。
- ② 図書館ガイダンスに関するパラグラフにて、「一部の専門ゼミ」と修正する。
- ③ 将来計画について、エドリルのさらなる活用計画を入れる

### 基準項目 2-3

- ① 2-3-①の説明文にある教職課程センターに関する記述はカットする。
- ② 2-3-④ キャリアセンター → キャリアサポート委員会 に修正する

#### 基準項目 2-4

- ① 海外留学支援制度について、他にも支援金があるはずなので国際交流センターにて確認してもらう。
- ② 学生相談室について、睡眠に詳しいカウンセラーの配置、協力クリニックの変更について、学生課に詳細を確認して記述する。

#### 基準項目 2-5

- ① 校地面積等は企画総務課にて確認する
- ② 図面を最新のものに差替する。
- ③ キャンパス整備について触れる。ただし、詳細は 5-1 を参照とする。
- ④ ELIS の略が間違っているので修正する。
- ⑤ ポリシーの抜粋は、基準 1 参照として統一する。

#### 基準項目 3-1

- ① 3-1-③ 100 分授業、14 回講義の表記に修正する。
- ② 将来計画の基準項目 2-4 → 3-1 へ移動する。

#### 基準項目 3-2-④

基礎・教養教育センターの記述について、整備が進んで専任教員 5 名の体制となっていることなどの記述を入れる。

#### 基準項目 3-3

- ① 学修行動調査のパラグラフにて エドへんが「ヘン」になっているので修正する。
- ② アンケート類の回収年を 2019 年度に修正する。また回収率を確認して入力する。

#### 基準 4

委員会一覧について

- ① 退学者対策は、委員会ではなく、退学者対策会議で教務委員会の中の組織でした。
- ② IR 推進室運営委員会の説明文がない。

#### 基準項目 4-2-②

自己判定の理由において、教職課程の記述をすべてカットする。

#### 基準項目 4-3-①

自己判定の理由において、IR や人事、財務、広報等、各分野に精通した → キャリアコンサルタントや国際交流、財務、広報等、各分野に精通した に変更する。

#### 基準 5

基準項目 5-2 納付金等の最新の表を挿入する。

#### 基準 6

自己評価のパラグラフにて、平成 31 (2019) 年 3 月 → 令和 2 (2020) 年 3 月 に修正する。

#### 基準項目 6-2

- ① 新カルテへの入替え作業が 2019 年度は進められた点を記述する。
- ② IR 推進室運営委員会の名称に統一する。
- ③ 学生募集の戦略策定に役立てている → 役立てる準備を進めている。

#### 2 2019 年度 答申への回答および活動報告の依頼

アンケートシートができたなら ML にてメール審議として、次年度の委員会へ引き継ぎしたいと提案があり、承認された。

以上が、江戸川大学での自己点検・評価委員会の活動記録である。冒頭でも述べたように、日本高等教育評価機構による認証評価受審が近づく中、大学教育の質向上、可視化、情報開示に向け、本委員会としても活動を継続していきたいと考える。